

恋ヶ窪東遺跡発掘調査概報

Ⅱ

—丸紅株式会社共同住宅建設に伴う調査—

2000年12月

国分寺市遺跡調査会

序

国分寺市の北を限る付近の武蔵野丘陵上には西から東にかけて、恋ヶ窪・羽根沢・恋ヶ窪東の大遺跡とその南方に恋ヶ窪南・花沢西、さらに花沢東・本町の遺跡群が集中的に存在している。これらの遺跡は、野川の源流地域に密集している湧水地に沿って立地している石器時代の集落遺跡であるが、とくに縄文時代中期に発達し後期にいたる大規模な集落として捉えられている。この度、発掘調査を実施した恋ヶ窪東遺跡は、西に谷を隔てて存在する羽根沢遺跡とその西に接する恋ヶ窪遺跡と共に、この地域の代表的な遺跡である。

恋ヶ窪東遺跡（国分寺NO.57）は、東西250m、南北600mの拡がり有し、すでに12次にわたる発掘調査が実施され、縄文時代中期の勝坂式期から加曾利E式期にかけての遺構——住居跡（竪穴及び「敷石」）・土坑（集石・素掘り）などが検出されてきた。今回の発掘対象地は、平成元年4月から7月にかけて発掘された第5次調査地域に接した地区であった。既発掘地域からは、勝坂式期の竪穴、加曾利E式期終末の敷石遺構が検出され、また、南方の地域から竪穴住居跡・敷石遺構が多数発掘され、恋ヶ窪東遺跡の様相がかなり広範な地域にわたって形成されていたことが明らかにされてきている。

平成11年12月からあくる年の1月にかけて実施された今回の発掘は、遺構が集中して存在する範囲を外れていたことが確認され、土坑（1基）と小穴群（40穴）が検出されたのみであった。これらの遺構は伴出遺物の観察によれば縄文時代中期の勝坂式及び阿玉台式の時期にわたることが知られた。かかる発掘の結果は、発掘対象地が集落の中核部分を離れた外縁地域にあたるということが明らかに把握され、恋ヶ窪東遺跡における空間内の遺構の存在状態を示す資料となったのである。

調査にあたってご高配を頂いた丸紅株式会社のご協力に感謝の意すると共に、今後における野川源流域に展開していた縄文時代集落の構造理解の一資料として活用されることを期待したい。

平成12年12月20日

国分寺市遺跡調査会
調査会長 坂 詰 秀 一

例 言

1. 本書は、丸紅株式会社共同住宅建設に伴う発掘調査報告書である。
2. 本調査は、丸紅株式会社から国分寺市遺跡調査会に委託されたものである。
3. 発掘調査は、平成11年12月6日から平成12年1月31日まで行い、整理および報告書作成は平成12年12月27日まで国分寺市遺跡調査会西国分寺事務所で行った。
4. 調査は上村昌男が専従した。
5. 本書の執筆・編集は、吉田格団長の監修のもとに上村昌男が行った。
6. 発掘調査から報告書の作成に至る過程で、次の方々から御教示、御協力をいただいた。

(敬称略、順不同)

吉田好孝、吉岡秀範、中山哲也

7. 発掘および整理参加者 (敬称略)

発掘作業

藤崎 努、桂 弘美、丸紅建設株式会社監督員・作業員

整理作業

東 清子、井村みゆき、佐藤緋佐子、岡島チツエ

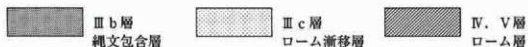
凡 例

本 文

1. 国分寺市内の武蔵国分寺跡を除いた遺跡は、頭に「K」を冠し次に遺跡の番号と調査次数を記入する。
2. 遺構は、各遺構毎に発見順に連続番号を付した。
3. 本文中の出土遺物の番号は図面番号を用いた。例えば「5-1」とあれば「図面5-1」を指す。

図面・図版

1. 遺構全体図に表示した数字は、国家座標第9系を用いて距離を表している。X軸が南北ライン、Y軸が東西ラインを示す。
2. 断面図に表示した数字は、水糸レベルで海拔高を示す。
3. スクリーントーンの指示は次のとおりである。



4. 写真図版の内、出土遺物の番号は図面番号と対照にした。例えば「5-1」とあれば「図面5-1」を指す。
5. 遺構図面、遺物図面は次の縮尺に統一した。

遺構配置図 1/300 土坑・小穴 1/40

土器実測図 1/3 土器拓本 1/3 石器実測図 1/3

6. 遺物図版は次の縮尺に統一した。

土器破片 1/1 石器・礫 1/1

本文目次

序	
例言	
凡例	
I 調査に至る経過	1
II 調査地区の概観	4
1. 調査地区の位置・立地	4
2. 層序	4
III 発掘経過	10
IV 検出遺構	13
V 出土遺物	17
VI 小結	19
VII 結語	21
参考文献	22

挿図目次

第1図 恋ヶ窪東遺跡と周辺の遺跡 (1/10000)	6
第2図 遺跡周辺の地形 (1/10000)	7
第3図 調査地区の位置 (1/2500)	8
第4図 基本層序	9
第5図 計画建物範囲 調査範囲 (1/300)	11

表目次

第1表 調査工程表	12
-----------	----

図 面 目 次

- 図面1 遺構配置図
図面2 SK559J土坑・PJ-1～15小穴
図面3 PJ-16～28小穴
図面4 PJ-29～40小穴
図面5 SK559J土坑・PJ-5・7・15・27・30・34小穴出土土器・石器・礫

図 版 目 次

- 図版1 K57-13次調査区
1. K57-13次調査区遠景
2. 縄文時代発掘作業風景
3. 縄文時代発掘作業風景
図版2 K57-13次調査区
1. Aトレンチ縄文時代完掘全景 南から
2. Bトレンチ縄文時代完掘全景 南から
3. SK559J完掘全景 東から
図版3 K57-13次調査区
1. SK559J南北土層断面 東から
2. 旧石器時代発掘作業風景 西から
3. 旧石器時代完掘全景 南から
図版4 SK559J土坑・PJ-5・15・27・30小穴・遺構外出土土器
図版5 遺構外出土土器
図版6 SK559J土坑・PJ-7・34小穴出土土器・礫

I 調査に至る経過

平成11年10月14日付、国教社文取第291号にて、丸紅株式会社より国分寺市本町4丁目2874-3・8番地において共同住宅建設工事を行いたい旨の届出が市教委文化財課に提出された。

建設予定地は国分寺市NO.57遺跡（窓ヶ窪東遺跡）の範囲に該当し、平成元年に独身寮建設に伴う事前発掘調査を実施しており、縄文時代中期の竪穴住居跡や集石土坑・小穴が検出されている。

今回の共同住宅建築建物が前回の寮と異なる位置に計画されているため、敷地内の未調査部分について事前調査を実施することで協議を行い以下の内容で合意した。

①調査は、前回実施した寮建設本調査範囲外で、今回の建設工事により影響を受ける部分を対象に設定し、発掘深度は縄文時代の遺構確認面であるローム層上面（地表より0.8m）を基本とする。旧石器時代の調査については敷地内に設置されるエレベーター式の駐車場を主に行う。

②発掘調査に伴う敷地の仮囲い・調査事務所などの仮設工事および表土除去・残土処分・調査終了後の埋め戻しなどの土木工事は、施主より提供を受ける。

③発掘調査を実施する作業員は、施主より労務提供を受ける。

④調査範囲の設定は、前回の調査範囲と重なるようにA、Bの2箇所トレンチを設定する。

⑤現地調査終了後、調査会西国分寺事務所において整理作業を行う。整理作業は、報告書の刊行までとする。

本調査は、平成11年12月6日より着手し平成12年1月31日に終了した。尚、これら一連の調査は、国分寺市NO.57遺跡の13次調査（K57-13次）として登録されている。

国分寺市遺跡調査会組織

（平成12年12月現在）

会 長	坂 浩 秀 一	国分寺市文化財保護審議会委員長
副 会 長	吉 田 格	元国分寺市文化財保護審議会委員
理 事	永 峯 光 一	元國學院大学教授
理 事	大 川 清	国士館大学名誉教授
理 事	山 崎 眞 秀	国分寺市長

理事	大平 惠吾	国分寺市教育委員会委員長
理事	内野 孝治	国分寺市教育委員会委員
理事	野村 武郎	国分寺市教育委員会教育長
理事	星野 亮雅	元国分寺市社会教育委員
理事	藤間 恭助	元国分寺市文化財保護審議会委員
理事	本多 寅太郎	国分寺市文化財保護審議会副委員長
理事	古関 豊	国分寺市文化財保護審議会委員
理事	関口 雄基臣	国分寺市文化財保護審議会委員
理事	北原 進	国分寺市文化財保護審議会委員
理事	坂東 雅樹	東京都教育庁生涯学習部文化課長
理事	木保 健明	国分寺市教育委員会社会教育部長
監事	榎戸 深	元国分寺市社会教育委員
監事	可児 通宏	東京都教育庁生涯学習部文化課課長補佐

—— 事務局 ——

事務局長	林 誠司	国分寺市教育委員会社会教育部文化財課長
事務局員	豊 泉文夫	国分寺市教育委員会社会教育部文化財課 文化財保護係長
事務局員	木村 ゆう子	国分寺市教育委員会社会教育部文化財課 文化財保護係員
事務局員	宮保 正美	国分寺市遺跡調査会
事務局員	稲井 亮	国分寺市遺跡調査会

—— 調査団 ——

調査団長	吉田 格	元国分寺市文化財保護審議会委員
主任調査員	有吉 重藏	国分寺市教育委員会社会教育部文化財課長補佐 兼埋蔵文化財係長
調査員	福田 信夫	国分寺市教育委員会社会教育部文化財課埋蔵文化財係員
調査員	上村 昌男	国分寺市教育委員会社会教育部文化財課埋蔵文化財係員
調査員	上敷領 久	国分寺市教育委員会社会教育部文化財課埋蔵文化財係員
調査員	岩崎 玲子	国分寺市教育委員会囑託遺跡調査員
調査員	木下 さおり	国分寺市遺跡調査会

調査員	吉田好孝	日本窯業史研究所
調査員	吉岡秀範	日本窯業史研究所
調査員	中山哲也	日本窯業史研究所

II 調査地区の概観

1. 調査地区の位置・立地

恋ヶ窪東遺跡は、国分寺市本町4丁目と日立中央研究所構内の一部分を含む東恋ヶ窪1丁目、それに2丁目にかけて所在する。その規模は東西250m、南北600mの範囲におよび、標高76mの武蔵野台地上に立地し、眼下には崖線からの湧水を集めつつ流れとなる野川の源泉を見下ろすことができる。

市内を流れる野川流域には小支谷や湧水地が数多くあり、その近辺には遺跡が点在している。それらの多くは縄文時代中期の遺跡として扱われており、本遺跡もその一つに数えることができる。

本遺跡の西側には比高差約12mで台地を区切るように南北に延びるさんや谷があり、谷をはさんだ対岸には縄文時代中期の敷石住居跡や竪穴住居跡、屋外埋壘、土坑、集石土坑などが発掘調査によって検出されている羽根沢遺跡がある。さらにその西側の同一台地上に小支谷をはさんで、縄文時代中期の勝坂式期より加曾利E式期の竪穴住居跡が多数検出されている恋ヶ窪遺跡が立地している。本遺跡の南側には地つづきに花沢西遺跡があり、発掘調査により縄文時代中期前半・後半それぞれに後期の遺構、遺物が発見されている。

調査区は本町4丁目24番地内で本遺跡のほぼ中央に位置し、西側にあるさんや谷より東に約150m台地内に入った地点である。調査区の周辺地域においてこれまでに店舗工事や公共下水道管理敷工事、電気ケーブル埋設工事に伴う発掘調査を4回にわたり実施している。その結果、縄文時代中期の勝坂式期や加曾利E式期の竪穴住居跡、屋外埋壘、土坑、集石土坑が検出されている。また、平成元年に実施した寮建設の第5次発掘調査において敷地内より縄文時代中期前半の竪穴住居跡1軒と中期終末の敷石住居跡が発見されている。その他、住宅建設やガス管・水道管等の埋設工事に際して立会い調査も行っており、そこからも縄文時代中期の遺物が出土していることから縄文時代中期の遺構、遺物が多く包蔵されている遺跡である。

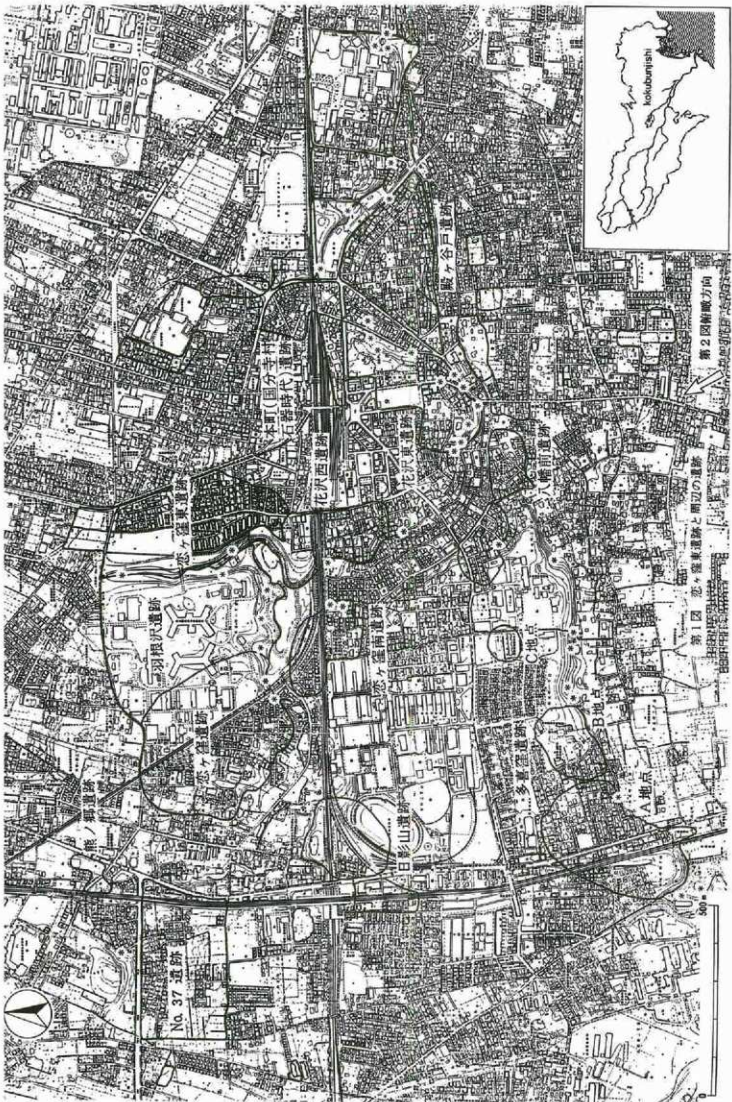
2. 層 序

調査区は武蔵野段丘に位置し、基本層序は図面1遺構配置図の北壁土層断面A、B、C、D点を使用した。

- | | |
|------------|--|
| I a 層 盛土 | 旧建物による攪乱の層であり、コンクリート・砂利・山砂等が多くまじった土層である。 |
| I b 層 暗褐色土 | 耕作土であり、乾燥するとバサバサして崩れる。 |

- II 層 黒褐色土 粒子が粗く、粘性を欠く土層である。歴史時代遺構内の堆積土層に酷似する。
- III b 層 暗茶褐色土 上部においてはスコリア粒子が少量まじり、下部にいくにしたがってスコリア粒子が多く含まれる。縄文時代の遺物包含層であり、本層の中部より遺構を確認することができる。
- III c 層 茶褐色土 ローム層への漸移層である。本層で遺構は明確に検出できる。
- IV 層 黄褐色土 立川ローム層のソフトロームに該当する層である。
- V a 層 黄褐色土 立川ローム層のハードロームに該当する層である。赤色スコリアを多く含み下層にいくにしたがい黄色味が薄くなる。
- V b 層 暗黄褐色土 立川ローム層のハードロームに該当する層である。黒色スコリアを含み V a 層より黒色味が強い。
- VI 層 黄暗黒褐色土 立川ローム層の第 1 黒色帯に該当する層である。黒色スコリアが多く含まれており V b 層より黒色味が強い。
- VII 層 黄褐色土 灰白褐色ブロックを多く含み割るとジャリジャリする。始丹沢火山灰 (A T 層) に該当する層である。
- VII a 層 黄暗茶褐色土 立川ローム層の第 2 黒色帯の上部に該当する層である。
- VII b 層 暗黒黄褐色土 立川ローム層の第 2 黒色帯に該当する層である。VII a 層よりさらに黒色味が強い。
- IX a 層 黒暗黄褐色土 立川ローム層の第 2 黒色帯に該当する層である。暗灰褐色ブロックが全体に散らばっている層である。
- IX b 層 黒暗茶褐色土 立川ローム層の第 2 黒色帯の下部に該当する層である。
- X 層 黄褐色土 立川ローム層の第 X 層に該当する層である。粒子が細かく白色スコリアを少量含み黄色味が強い。

以上のような土層が確認され、縄文時代の遺構は III c 層の上面にて検出された。傾向としては、東側へやや傾斜して土層が堆積しているようである。



第2回附屬方向

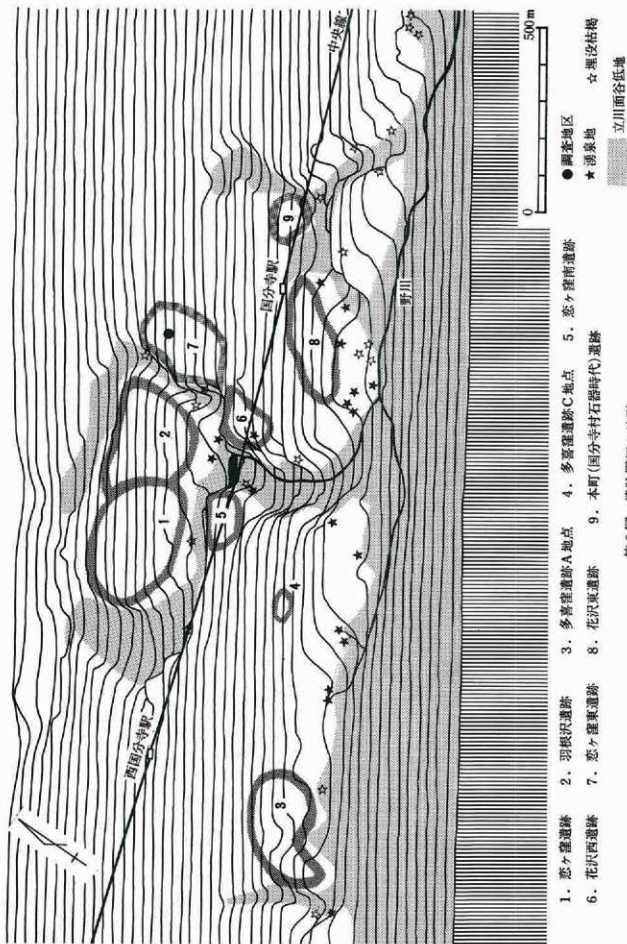
第1回 変・強電線と周辺の道路

A地点 B地点 C地点

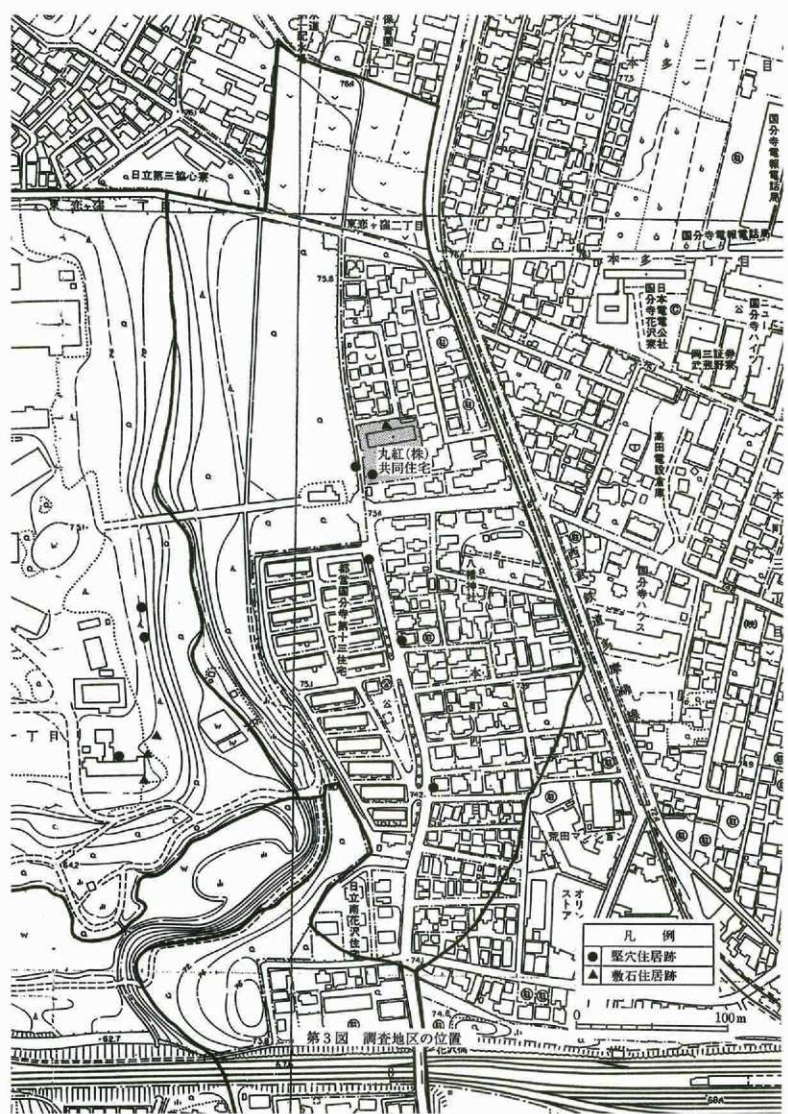
多摩線道路

No. 37 道路

500



第2図 道跡周辺の地形



日立第三協心寮

原形二丁目

国分寺電報電話局

日本電気公社
国分寺花沢家
三田電機工場
三田電機事務所

丸紅(株)
共同住宅

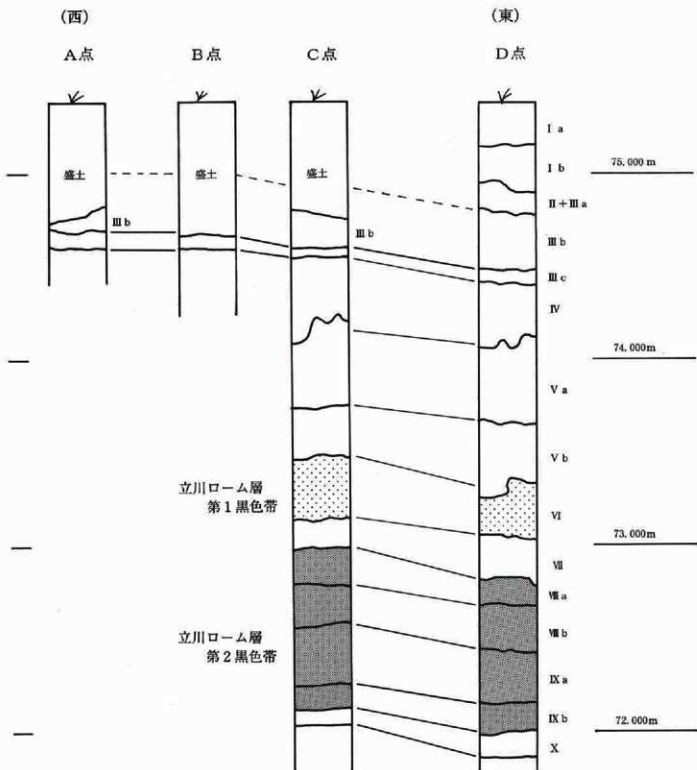
新三田分譲十三住宅

ストア

凡例	
●	堅穴住居跡
▲	敷石住居跡

0 100m

第3図 調査地区の位置



第4図 基本層序

Ⅲ 発 掘 経 過

丸紅株式会社共同住宅建設に伴う発掘調査は、I項で述べたように平成元年に寮建設に伴う第5次発掘調査を実施済みであり、縄文時代中期の遺構・遺物が存在する事が明らかとなっている。今回の建物建設工事で前回の発掘調査未了な部分について本調査を実施する発掘方法がとられた。

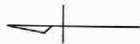
以下、調査の概略を記することとする。

調 査 次 数 K57-13次調査として登録し発掘を行う。

本調査調査期間 平成11年12月6日～平成12年1月31日 実働日数32日間

本調査面積 546.8㎡

本調査は、12月6日より重機による表土・攪乱層の掘削と搬出作業で開始され、次に遺物包含層の発掘・遺構確認作業へと進めていった。12月中旬に包含層発掘による2次残土の整地作業のために再度重機を使用している。縄文時代の検出遺構については写真撮影、土層断面実測、平面実測の順で調査を進めた。旧石器時代の調査は1月後半より掘削作業を始めた。調査トレンチより遺物が検出されないため土層断面実測を行い終了した。本調査の進行状況については第1表にまとめてあるので参照されたい。



DCU
X-33140

DVA
X-33150

DDF
X-33160

DDK
X-33170

凡例

□ K57-13次調査範囲

□ K57-5次調査範囲

■ 計画建物範囲

975
Y-31850

970
Y-31940

965
Y-31930

960
Y-31920

0
10m

第5図 計画建物範囲・調査範囲

第1表 調査工程表

項目	1999年12月												2000年1月															
	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	
盛土掘削Aトレ																												
盛土掘削Bトレ																												
Ⅲ層掘削																												
旧石器掘削																												
作業内容	写真																											
	図面																											
	測量																											
備考	重機掘削												重機掘削															
	重機搬入整備												調査開始(立合)															
備	全面清掃												埋戻し															
	調査終了																											

IV 検出遺構

窓ヶ窪東遺跡は、調査地区の概観で触れたように、縄文時代中期の勝坂式期や加曾利E式期の遺構、遺物が多く包蔵されている遺跡である。今回の第13次調査地内より発見された遺構は土坑1基、小穴40個である。これらの遺構は平成元年度に第5次調査を行い検出された竪穴住居跡2軒（内1軒は敷石住居跡）、集石土坑2基、土坑2基とあわせて本遺跡内の縄文時代の集落を構成する遺構と考えられる。

各遺構については以下に詳述するが、その形成時期は縄文時代中期勝坂式期から加曾利E式期にかけてである。

1) 土坑

SK559J土坑（図面1・2 図版2・3）

〈位置〉グリットDDA-977で調査区西側中央部よりやや北側に位置する。

〈形状〉長径1.65m、短径1.35mの楕円形を呈する。遺構確認面からの掘り込みは0.38mを測り、断面形は逆台形で立ち上がりは片面は緩やかで他面は鋭角である。覆土は7層に分層され、上部は茶褐色土で底面近くはロームブロックを多く含む茶黄褐色土となっている。

〈出土遺物〉土坑内から、勝坂式期土器片（図面5-1）と焼礫（図面5-26）が出土した。

〈時期〉出土遺物より縄文時代中期前半の勝坂式期の土坑である。

2) 小穴（図面1～4 図版2）

小穴は40個検出されている。これらの小穴を形状で大別すると3グループに分けることができる。

a グループ

〈形状〉平面が楕円形で断面形がU、V字の形状のものPJ-6・8～19・22～34・36～40の31個である。径が20～70cm、深さは15～40cmで、覆土は暗茶褐色土を主体とする土層が堆積する。

〈出土遺物〉これら小穴内、PJ-15・27より（図面5-3・11・14・15）の阿玉台式期土器片が、PJ-30より（図面5-4）の勝坂式期土器片、PJ-34より（図面5-25）の石匙が出土している。

〈時期〉縄文時代の中期前半の勝坂式期の土器片や併行期である阿玉台式期の土器片が出土しており小穴の大半が該期の遺構であると考えられる。

bグループ

〈形状〉平面が不定形で断面形が広い皿状のものPJ-5・7・35の3個である。長径が70～140cmでやや大きく、深さは10cmと浅い。覆土は暗茶褐色土に茶褐色土ブロックが混じる土層である。

〈出土遺物〉PJ-5より(図面5-2)の勝坂式期土器片、PJ-7より(図面5-27)の焼酎が出土している。

〈時期〉縄文時代の中期前半の勝坂式期の土器片が出土していることより該期の遺構と考えられる

cグループ

〈形状〉平面が不定形で断面の形状も不定のものPJ-1～4・20・21の6個である。径が70～90cm、深さは20～30cmで、覆土は暗茶褐色土に茶褐色土ブロックが多く混じる土層が堆積する。

〈出土遺物〉小穴内から遺物は出土していない。

〈時期〉出土遺物がないため時期は不詳である。

土層説明

SK559J 土坑 図面 2

1. 暗茶褐色土 やや大粒のスコリア粒子を少量含む。
2. 暗茶褐色土 やや大粒のスコリア粒子と茶褐色土ブロックを含む。
3. 暗茶褐色土 やや大粒のスコリア粒子と茶褐色土ブロックを多く含む。
4. 暗茶褐色土 茶褐色土ブロックとロームブロックを含む。
5. 茶黄褐色土 ロームブロックを多く含む。
6. 茶暗褐色土 茶褐色土ブロック・ロームブロックを少量含む。
7. 黄褐色土 ロームブロックを多く含む。

PJ-1 小穴 図面 2

1. 暗茶褐色土 ローム粒子・スコリア粒子を含み、茶褐色土ブロックが混じる。
2. 暗黄褐色土 ロームブロックを含む。
3. 黄褐色土 ロームブロックを多く含む。

PJ-2 小穴 図面 2

1. 暗茶褐色土 スコリア粒子を少量含む。
2. 暗茶褐色土 ローム粒子・スコリア粒子を少量含み、茶褐色土ブロックが混じる。
3. 茶黄褐色土 ロームブロックと茶褐色土ブロックが

混じる。

PJ-3・4 小穴 図面 2

1. 暗茶褐色土 ローム粒子・スコリア粒子を少量含む。
2. 暗茶褐色土 ロームブロック・茶褐色土ブロックを少量含み、スコリア粒子が混じる。

PJ-5・6 小穴 図面 2

1. 暗茶褐色土 茶褐色土ブロックを含み、スコリア粒子とローム粒子が混じる。
2. 暗黄褐色土 ロームブロックを多く含み、スコリア粒子が混じる。
3. 暗茶褐色土 茶褐色土とスコリア粒子を少量含む。

PJ-7 小穴 図面 2

1. 暗茶褐色土 少量のローム粒子・スコリア粒子が混じる。
2. 暗黄褐色土 ロームブロックを多く含み、スコリア粒子が混じる。

PJ-8 小穴 図面 2

1. 暗茶褐色土 やや大粒のスコリア粒子を含む。
2. 暗茶褐色土 茶褐色土ブロック・スコリア粒子を含む。
3. 黄褐色土 ロームブロックを多く含む。

PJ-9 小穴 図面 2

1. 暗茶褐色土 ローム粒子・スコリア粒子を少量含む。
 2. 茶黄褐色土 ロームブロック・茶褐色土ブロックを含む。
- PJ-10 小穴 図面 2
1. 暗茶褐色土 ローム粒子・スコリア粒子を含む。
 2. 黄暗褐色土 ロームブロック・茶褐色土ブロックを含む。
- PJ-11 小穴 図面 2
1. 暗茶褐色土 茶褐色土ブロック・ローム粒子・スコリア粒子を少量含む。
 2. 茶黄褐色土 ロームブロック・茶褐色土ブロックにスコリア粒子が混じる。
- PJ-12 小穴 図面 2
1. 暗茶褐色土 茶褐色土ブロック・ローム粒子・スコリア粒子が混じる。
 2. 茶黄褐色土 ロームブロック・ローム粒子・スコリア粒子を含む。
- PJ-13・14 小穴 図面 2
1. 暗茶褐色土 スコリア粒子を少量含む。
 2. 暗黄褐色土 ロームブロックを多く含む、ローム粒子・スコリア粒子が混じる。
- PJ-15 小穴 図面 2
1. 茶褐色土 ロームブロック・茶褐色土ブロック・スコリア粒子が混じる。
 2. 黄暗褐色土 ロームブロックを多く含む。
- PJ-16 小穴 図面 3
1. 暗茶褐色土 ローム粒子・スコリア粒子を少量含む。
 2. 暗茶褐色土 ロームブロック・茶褐色土ブロックを多く含む、大粒なスコリア粒子が混じる。
- PJ-17 小穴 図面 3
1. 暗茶褐色土 ローム粒子・スコリア粒子を含む。
 2. 黄暗褐色土 ロームブロック・茶褐色土ブロックを含む。
- PJ-18 小穴 図面 3
1. 暗茶褐色土 ローム粒子・スコリア粒子を少量含む。
 2. 茶黄褐色土 ロームブロック・茶褐色土ブロックを含む。
 3. 黄暗褐色土 ロームブロックを多量に含む。
- PJ-19 小穴 図面 3
1. 暗茶褐色土 ローム粒子・スコリア粒子を含む。
 2. 黄暗褐色土 ロームブロックを多く含む。
- PJ-20 小穴 図面 3
1. 暗茶褐色土 ローム粒子・スコリア粒子を少量含む。
 2. 茶黄褐色土 ロームブロックを多く含む。

- PJ-21 小穴 図面 3
1. 暗茶褐色土 ローム粒子・スコリア粒子を少量含む。
 2. 暗茶褐色土 ローム粒子・スコリア粒子を含み、茶褐色土ブロックが混じる。
 3. 茶黄褐色土 ロームブロック・茶褐色土ブロックが混じる。
- PJ-22 小穴 図面 3
1. 暗茶褐色土 やや大粒のスコリア粒子・ローム粒子を含む。
 2. 暗茶褐色土 茶褐色土ブロックを多く含む、ローム粒子・スコリア粒子が混じる。
 3. 暗茶褐色土 細かいロームブロックを多く含む、スコリア粒子が混じる。
- PJ-23 小穴 図面 3
1. 暗茶褐色土 やや大粒のスコリア粒子が混じる。
 2. 暗茶褐色土 茶褐色土ブロックを含み、やや大粒のローム粒子・スコリア粒子が混じる。
 3. 暗茶黄褐色土 ロームブロック・茶褐色土ブロックが混じる。
- PJ-24 小穴 図面 3
1. 暗茶褐色土 細かいローム粒子・スコリア粒子を少量含む。
 2. 暗茶褐色土 茶褐色土ブロックを少量含む、細かいローム粒子・スコリア粒子が混じる。
 3. 茶褐色土 茶褐色土ブロックを多く含む。
- PJ-25 小穴 図面 3
1. 暗茶褐色土 スコリア粒子・ローム粒子を含み、茶褐色土ブロックが混じる。
 2. 暗茶褐色土 スコリア粒子・ローム粒子を多く含む。
 3. 暗茶褐色土 スコリア粒子・ローム粒子の他にロームブロックが少量含まれる。
 4. 茶黄褐色土 ロームブロックを多く含む、茶褐色土ブロックが混じる。
 5. 暗茶褐色土 やや大粒のローム粒子・スコリア粒子が混じる。
 6. 茶黄褐色土 ロームブロックを多く含む、スコリア粒子が混じる。
- PJ-26 小穴 図面 3
1. 暗茶褐色土 細かいローム粒子・スコリア粒子を少量含む。
 2. 茶黄褐色土 ロームブロックを含む。
- PJ-27 小穴 図面 3
1. 暗茶褐色土 ローム粒子・スコリア粒子を少量含む。
 2. 暗茶褐色土 ローム粒子・スコリア粒子を少量含む、茶褐色土ブロックが混じる。

PJ-28 小穴 図面 3

1. 茶暗褐色土 茶褐色土ブロックを多く含む、スコリア粒子が少量混じる。
2. 茶黄褐色土 茶褐色土ブロックとロームブロックを含む。

PJ-29 小穴 図面 4

1. 茶暗褐色土 スコリア粒子を少量含む。
2. 暗茶褐色土 茶褐色土ブロックにスコリア粒子が少量含まれる。
3. 茶暗褐色土 茶褐色土ブロックを多く含む。

PJ-30 小穴 図面 4

1. 暗茶褐色土 茶褐色土ブロック・ロームブロックを少量含む。
2. 暗茶褐色土 茶褐色土ブロックを含む。

PJ-31 小穴 図面 4

1. 暗茶褐色土 茶褐色土ブロックを多く含む。
2. 茶黄褐色土 ロームブロックを多く含む。
3. 茶暗褐色土 茶褐色土ブロックを多く含む。

PJ-32 小穴 図面 4

1. 暗茶褐色土 茶褐色土ブロックを多く含む。
2. 暗茶褐色土 茶褐色土ブロックを含む。
3. 暗茶褐色土 茶褐色土ブロックを含み、スコリア粒子が混じる。

PJ-33 小穴 図面 4

1. 暗茶褐色土 茶褐色土ブロックを含む。
2. 暗茶褐色土 茶褐色土ブロックを多く含む。
3. 茶黄褐色土 ロームブロックを多く含む。

PJ-34 小穴 図面 4

1. 暗茶褐色土 茶褐色土ブロックを多く含む。
2. 暗茶褐色土 茶褐色土ブロックを少量含む。
3. 茶暗褐色土 茶褐色土ブロック・ロームブロックを含む。

PJ-35 小穴 図面 4

1. 暗茶褐色土 スコリア粒子を少量含む。
2. 暗茶褐色土 茶褐色土ブロックを含む。
3. 茶暗褐色土 茶褐色土・ロームブロックブロックを少量含む。

PJ-36 小穴 図面 4

1. 暗茶褐色土 茶褐色土ブロックを含む。
2. 暗茶褐色土 茶褐色土ブロックを多く含む、スコリア粒子が少量混じる。
3. 暗茶褐色土 茶褐色土ブロックを多く含む。
4. 茶黄褐色土 ロームブロック・茶褐色土ブロックを含む。

PJ-37 小穴 図面 4

1. 暗茶褐色土 ローム粒子・茶褐色土粒子・スコリア粒子を含む。
2. 暗茶褐色土 大粒のローム粒子・茶褐色土粒子・スコリア粒子を含む。
3. 暗茶褐色土 茶褐色土ブロックを含む。
4. 茶黄褐色土 ロームブロック・茶褐色土ブロックを含む。

PJ-38 小穴 図面 4

1. 暗茶褐色土 スコリア粒子を少量含む。
2. 茶黄褐色土 ロームブロック・茶褐色土ブロックを多く含む。

PJ-39 小穴 図面 4

1. 暗茶褐色土 茶褐色土ブロックを少量含む。
2. 暗茶褐色土 茶褐色土ブロックを含む。
3. 黄暗褐色土 ロームブロックを多く含む。

PJ-40 小穴 図面 4

1. 暗茶褐色土 茶褐色土ブロックを多く含む。
2. 暗茶褐色土 茶褐色土ブロックを少量含む。
3. 茶暗褐色土 茶褐色土ブロック・ロームブロックを含む。

V 出土遺物

遺物は縄文土器・石器・礫があり、コンテナ1箱が出土している。これらの中で土坑内及び小穴より出土したものと、遺構外の遺物包含層より出土し図示が可能なものについて記述する。

1) 土器 (図面5 図版4・5)

5-1. 勝坂式期の深鉢型土器胴部の破片で、残存高1.8cmを測る。文様は隆帯で重三角形の区画文を表出し、その区画内に竹管による刺突とヘラによる三叉文が施される。SK559J土坑より出土する。

5-2. 勝坂式期の深鉢型土器胴部の破片で、残存高2.3cmを測る。文様は竹管による半隆起線文にRLの縄文を横位に施文される。PJ-5小穴より出土する。

5-3. 阿玉台式期の深鉢型土器胴部の破片で、残存高2.5cmを測る。文様は、無文である。胎土に金雲母を含み、焼成は悪くやや軟質である。PJ-15小穴より出土する。

5-4. 勝坂式期の深鉢型土器口縁部の破片で、残存高2.3cmを測る。口縁部の文様は、半截竹管による刺突が行われる。PJ-30小穴より出土する。

5-5. 勝坂式期の深鉢型土器口縁部の破片で、残存高5.0cmを測る。文様は口縁部付近RLの縄文を横位に施文し、その下を竹管によるキャタピラ文が施されている。包含層より出土する。

5-6. 勝坂式期の深鉢型土器口縁部の破片で、残存高3.0cmを測る。文様帯は、半截竹管による縦方向の半隆起線文が施される。包含層より出土する。

5-7. 勝坂式期の深鉢型土器胴部の破片で、残存高4.0cmを測る。文様は、隆帯を貼り付け竹管による刺突文が施される。包含層より出土する。

5-8. 深鉢型土器胴部の破片で、残存高3.3cmを測る。文様は、無文である。包含層より出土する。

5-9. 深鉢型土器底部の破片で、底径9.0cm、残存高2.6cmを測る。包含層より出土する。

5-10. 勝坂式期の深鉢型土器口縁部の破片で、残存高4.2cmを測る。口縁部の文様は、半截竹管による刺突が行われる。包含層より出土する。

5-11. 阿玉台式期の深鉢型土器胴部の破片で、残存高2.3cmを測る。文様は、無文である。胎土に金雲母を含む。PJ-15小穴より出土する。

5-12. 勝坂式期の深鉢型土器胴部の破片で、残存高3.5cmを測る。文様は、隆帯を貼り付け、隆帯に沿って竹管による押し引きが施される。胎土に金雲母を含む。包含層より出土する。

5-13. 阿玉台式期の深鉢型土器把手部分の破片で、残存高4.6cmを測る。胎土に金雲母を

含む。包含層より出土する。

5-14. 阿玉台式期の深鉢型土器胴部の破片で、残存高4.0cmを測る。文様は、Rの縄文を縦位に施文される。PJ-27小穴より出土する。

5-15. 深鉢型土器胴部の破片で、残存高4.0cmを測る。文様は、LRの縄文を縦位に施文される。PJ-27小穴より出土する。

5-16. 加曾利E式期浅鉢型土器頸部の破片で、残存高4.9cmを測る。文様は、Rの懸糸文を施文し、その上をへらで2対の連弧文が施されている。包含層より出土する。

5-17. 加曾利E式期深鉢型土器口縁部の破片で、残存高3.9cmを測る。文様は、沈線により区画を行いその内側にRLの縄文を横位に施文する。包含層より出土する。

5-18. 加曾利E式期深鉢型土器胴部下端の破片で、残存高4.0cmを測る。文様は、2条の沈線を垂下する。包含層より出土する。

5-19. 阿玉台式期の深鉢型土器胴部の破片で、残存高4.5cmを測る。器面には磨減している。胎土に金雲母を含む。包含層より出土する。

5-20. 浅鉢型土器胴部の破片で、残存高4.3cmを測る。文様は、LRの縄文が縦位に施される。包含層より出土する。

5-21. 阿玉台式期の深鉢型土器胴部の破片で、残存高3.4cmを測る。文様は、隆帯を貼り付け竹管による刺突を行なう。胎土に金雲母を含む。包含層より出土する。

5-22. 加曾利E式期深鉢型土器胴部の破片で、残存高3.6cmを測る。文様は、RLの縄文を縦位に施し磨り消しが行われている。包含層より出土する。

5-23. 加曾利E式期深鉢型土器口縁部の破片で、残存高5.8cmを測る。文様は、RLの縄文を横位に施文し、沈線による区画と磨り消しが行われている。包含層より出土する。

5-24. 加曾利E式期深鉢型土器胴部の破片で、残存高6.1cmを測る。文様は、隆帯を貼り付け器面が摩耗しているが一部分縄文が認められる。包含層より出土する。

2) 石器・礫 (図面5 図版6)

石 匙

5-25. 台形で鋭利な縁辺部を持つ一次剥片を素材としており、調整は打痕の除去と両側からの挟り部の形成で行われている。刃部は剥片の縁辺をそのまま利用し微調整が部分的に認められる。長さ6.8cm 幅6.3cm 厚さ1.1cm 重さ51.2gで、石材はホルンフェルスである。PJ-34小穴より出土する。

焼 礫

5-26. 不定形で被熱しており赤みを帯び、節理面で破砕している。長さ8.7cm 厚さ3.6cm

重さ172.4gで、石材は砂岩である。SK559J土坑より出土する。

5-27. 不定形で被熱しており赤みを帯び、節理面で破碎している。長さ4.9cm 厚さ3.0cm重さ30.2gで、石材は安山岩である。PJ-7小穴より出土する。

VI 小 結

恋ヶ窪東遺跡はこれまでに12ヶ所の発掘調査が行われている。調査当初は各地点からの遺構数も少なく、近接する恋ヶ窪遺跡と比較すると中規模程度の集落跡と考えられていた。しかし第9、11次の都管住宅建て替えに伴う調査(註1)により縄文時代中期前半から終末までの竪穴住居跡や敷石住居跡が多数検出され大規模集落跡であることが判明している。

第13次調査で検出された遺構は土坑1基、小穴40個であり、これらの遺構の時期は縄文時代中期の勝坂式期と考えられる。これらの遺構のありかたと、平成元年に寮建設に伴う第5次調査を行っており、その際に得られた資料及び周辺の調査状況を含めて本遺跡における縄文時代中期の集落跡の中でどのような位置を占めるのか検討してみた。

今回の調査は敷地内の北東側と北西側を主に発掘調査を行った。その結果、集落跡にかかわる竪穴住居跡は検出されず、当敷地内においては第5次調査で検出されたSI4・5J住居跡の2軒である。これらの住居跡は出土している土器よりSI4Jが勝坂Ⅱ式期で、SI5Jが加曽利E式終末期の時期が与えられている。その他、SS4・5集石土坑が2基とSK3・4J土坑が2基検出されておりSI4Jと同じ時期として捉えられている。また、調査地西側で実施した公共下水道管理施設工事に伴う第2次調査で勝坂Ⅱ式期に該当するSI2J住居跡が検出されており、SI2・4J住居跡が本遺跡における勝坂式期の集落跡で最も北側に位置する遺構と考えられている。(註2)

今回のSK559Jや小穴より勝坂式期や阿玉台式期の土器片が出土しておりSI2・4J住居跡と同じ時期であり、住居の外側に分布し集落外縁部を構成する遺構と推測される。縄文時代中期の大規模集落の形態はA居住域、B居住域の限界、C墓域、D居住域外に区分することができ、環状又は馬蹄形状に遺構が分布することが明らかになっている。恋ヶ窪遺跡の調査成果では、遺跡の中央に土坑が多数検出される地域がありCの墓域として捉えられ、その外側に竪穴住居跡が密集するAの居住域、さらに外側に竪穴住居跡がまばらに検出されるB居住域の限界、小穴だけで竪穴住居跡が検出されないDの居住域外として集落を構成する遺構の分布が明らかになっている。調査地の遺構検出状況は竪穴住居跡が1軒ありその周辺に集石土坑や土

坑、小穴が点在する状況で集落形態における分類のB居住域の限界に該当するものと考えられる。本遺跡におけるA居住域やC墓域の状況は判明していないが、平成8年度より第9、11次の都営住宅建て替えに伴う調査の整理作業が行われており、集落中心部分の様子が明らかになるものと期待がもたれる。

(註1) 本町第4都営住宅建て替え工事に伴う事前発掘調査で縄文時代早期、中期、後期の住居跡群が検出され調査を行う。(未報告)

(註2) 本町4丁目公共下水道面整備に伴う発掘調査において、勝坂Ⅱ式期のSⅠ2J住居跡が検出されている。今回の調査区との位置関係はSK559J土坑の西側約8mの地点である。この住居跡の北側については、下水道管理に伴う立会い調査で住居跡等の遺構は検出されていない。(恋ヶ窪東遺跡第2次調査)

Ⅶ 結 語

本報告は、国分寺市本町4丁目に所在する恋ヶ窪東遺跡において丸紅株式会社が行った共同住宅建設工事に伴う発掘調査の成果をまとめたものである。

恋ヶ窪東遺跡は、当初、日立中央研究所構内遺跡として捉えられていた。昭和58・59年度に市の文化財保護審議会の協力を得て実施した市内の湧水調査及び遺跡分布調査により範囲の見直しが行われ、国分寺崖線を南北に分断する「さんや谷」を挟んで西側の日立中央研究所を羽根沢遺跡、東側を恋ヶ窪東遺跡として変更し登録が行われた。

本遺跡は、JR国分寺駅に近い地の利のため、これまでに都営住宅建替え工事や共同住宅建設工事等の各種開発があり、その都度発掘調査が行われている遺跡である。今回の調査地も平成元年に社員寮建設に伴う発掘調査を実施し、敷地内の約半分は調査が終了しており、成果として縄文時代中期前半の勝坂式期竪穴住居跡1軒及び中期終末の加曾利E式期柄鏡型敷石住居跡1軒と集石土坑が検出され報告書が刊行されている。同じ敷地内で新たに丸紅株式会社による共同住宅建設が予定されたため、前回の未調査部分について発掘調査を行い、ここに報告書として刊行するに至った。

調査の結果、竪穴住居跡などは検出されなかったが、土坑や小穴が確認された。遺物は前回の調査で検出された住居跡と同じ勝坂式期や加曾利E式期の土器片が出土している。また、周辺で実施している下水道工事の調査でも、竪穴住居跡はこの地域より北側では発見されていないことが判明しており、遺跡内に分布する住居の広がりや把握する上で北側の限界を見極めることのできる貴重な資料が得られた。

市内の縄文時代遺跡は、野川流域の湧水地がある崖線に分布し発見されている。近年行われている各種開発に伴う緊急調査により、それぞれの遺跡の内容が次第に明らかとなり、その中には恋ヶ窪遺跡のように集落構造が把握できる遺跡もある。しかしその反面、調査で発見された遺構は順次消滅していく運命にあり、都市化が進む市内の遺跡に於てはこのような発掘調査方法もやむを得ないことである。今後は、発掘調査本来の目的である遺跡・遺物の保存及び活用という理念に立ち返り調査・研究を願う次第である。

(調査団長 吉田 格)

参 考 文 献

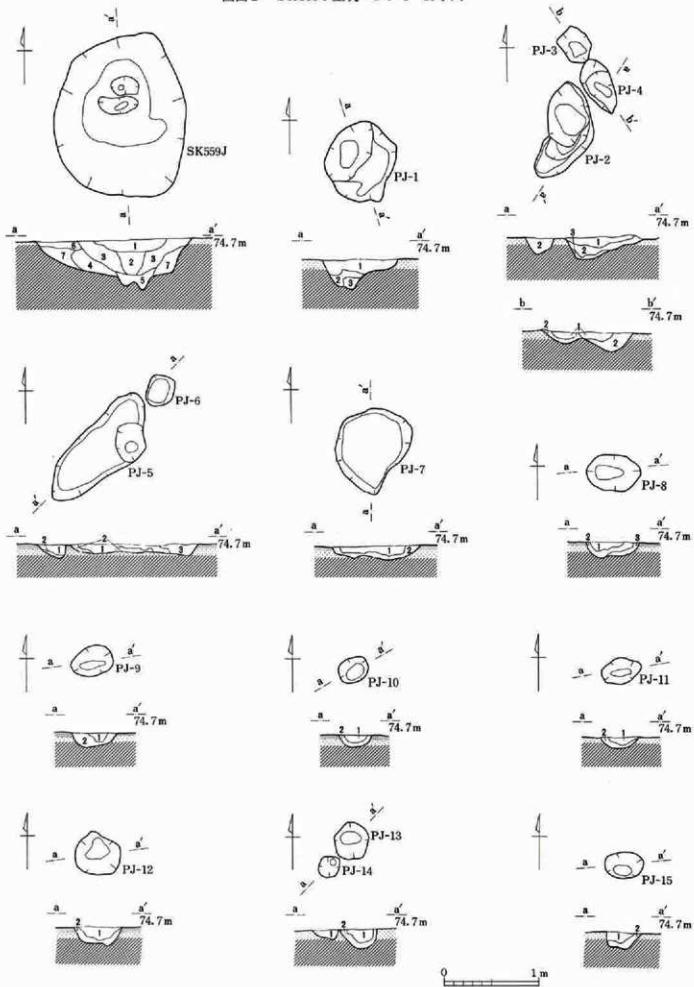
- 安孫子昭二・秋山道生・中西光 1980「東京・埼玉における縄文中期後半の編年試案」(『神奈川考古』10)
- 安孫子昭二 1988「勝坂式土器様式」(『縄文土器大観』2 小学館)
- 石岡憲雄・戸田哲也・西川博孝 1983「縄文原形」(『縄文文化の研究』5 雄山閣)
- 木下亀城・小川留太郎 1967『岩石鉱物』(保育社)
- 国分寺市 1986『国分寺市史』上巻(国分寺市)
- 滝口宏 1985「武蔵国分寺跡発掘調査概報」Ⅷ(武蔵国分寺遺跡調査会)
- 滝口宏 1987「恋ヶ窪南遺跡発掘調査概報」Ⅰ(国分寺市遺跡調査会)
- 滝口宏 1988「恋ヶ窪遺跡調査報告」Ⅳ(国分寺市遺跡調査会)
- 滝口宏 1990「恋ヶ窪東遺跡調査報告」Ⅰ(国分寺市遺跡調査会)
- 滝口宏 1992「恋ヶ窪遺跡調査報告」Ⅵ(国分寺市遺跡調査会)
- 永峯光一 1979「恋ヶ窪遺跡調査報告」Ⅰ(恋ヶ窪遺跡調査会)
- 永峯光一 1980「恋ヶ窪遺跡調査報告」Ⅱ(恋ヶ窪遺跡調査会)
- 永峯光一 1982「恋ヶ窪遺跡調査報告」Ⅲ(恋ヶ窪遺跡調査会)
- 山内清男 1979『日本先史土器の縄文』(先史考古学会)
- 吉田 格 1996「恋ヶ窪遺跡調査報告」Ⅶ(国分寺市遺跡調査会)
- 吉田 格 1997「恋ヶ窪遺跡調査報告」Ⅷ(国分寺市遺跡調査会)

圖 面

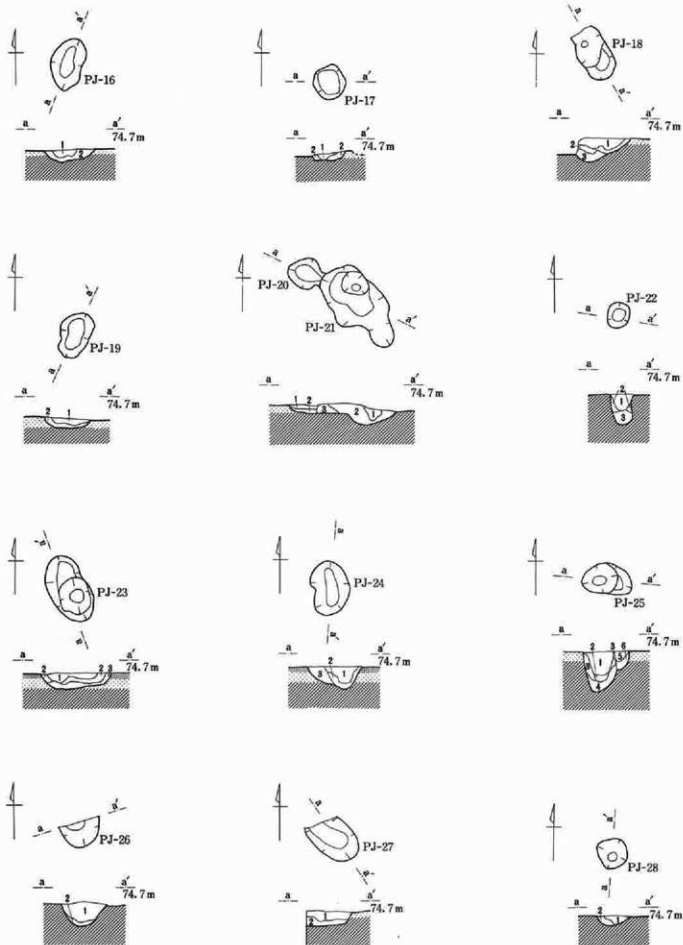
図面1 遺構配置図



圖面2 SK559J土坑·PJ-1~15小穴

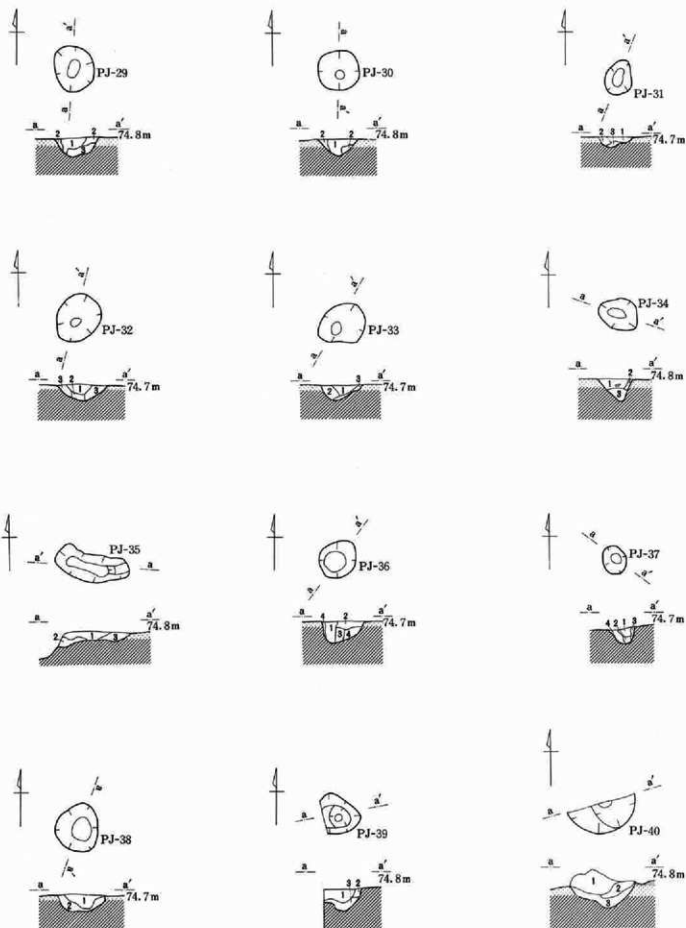


图面3 PJ-16~28小穴



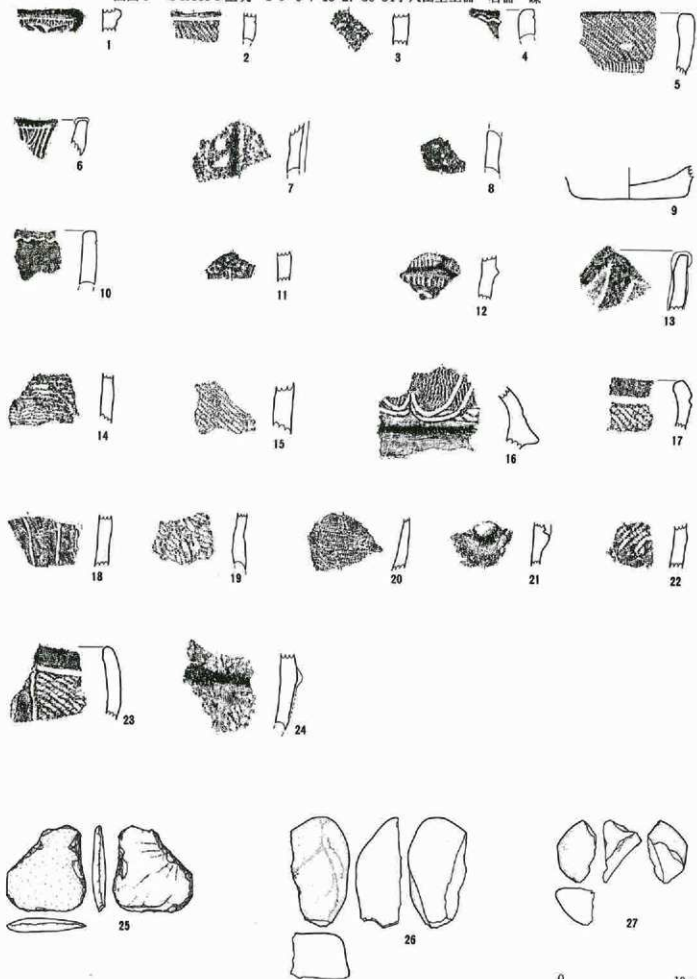
0 1m

图面4 PJ-29~40小穴



0 1m

図面5 SK559J土坑・PJ-5-7-15-27-30-34小穴出土土器・石器・鏢



0 10cm

圖 版

図版1 K57-13次調査区



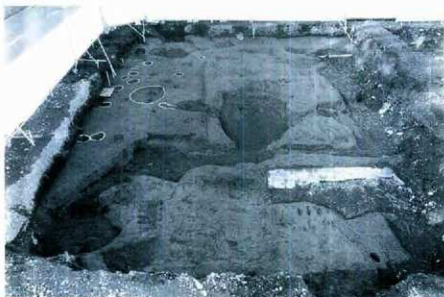
1. K57-13次調査区遠景



2. 縄文時代発掘作業風景



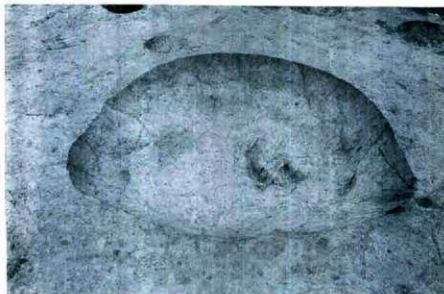
3. 縄文時代発掘作業風景



1. Aトレンチ縄文時代完掘全景 南から



2. Bトレンチ縄文時代完掘全景 南から



3. S K559 J完掘全景 東から



1. S K559 J 南北土層断面 東から



2. 旧石器時代発掘作業風景 西から



3. 旧石器時代発掘全景 南から

図版4 SK559J土坑・PJ-5・15・27・30小穴・遺構外出土土器



5-1



5-2



5-3



5-4



5-5



5-6



5-7



5-8



5-9



5-10



5-11



5-12



5-13



5-14



5-15

图版 5 遺構外出土土器



5-16



5-17



5-18



5-19



5-20



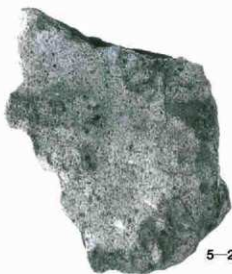
5-21



5-22



5-23



5-24



5-25



5-26



5-27

報告書抄録

ふりがな	こいがくほひがしいせきはつつつちようさがいほう							
書名	窓ヶ窪東遺跡発掘調査概報Ⅱ							
副書名	－丸紅株式会社共同住宅建設に伴う調査－							
編著者名	国分寺市遺跡調査団（団長 吉田格）、上村昌男							
編集機関	国分寺市遺跡調査会							
所在地	〒185-8501 東京都国分寺市戸倉1-6-1 国分寺市教育委員会内 TEL 042-325-0111							
発行年月日	2000年12月20日							
ふりがな	ふりがな	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因	
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	°′″	°′″			
窓ヶ窪東遺跡	東京都 国分寺市 本町	13-214	NO.57	35度 42分 00秒	139度 28分 48秒	1999年12月6日 } 2000年1月31日	546.8㎡	丸紅（株） 共同住宅 建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項		
窓ヶ窪東遺跡	集落跡	旧石器時代 縄文時代	なし		なし 土器 石器	窓ヶ窪東遺跡縄文時代中期 の集落に係る遺構を検出		
		歴史時代	なし		なし			

窓ヶ窪東遺跡発掘調査概報 Ⅱ

－丸紅株式会社共同住宅建設に伴う調査－

発行日 平成12年12月20日

編著者 国分寺市遺跡調査団

◎（団長 吉田 格）

発行所 国分寺市遺跡調査会

〒185-8501 国分寺市戸倉1-6-1

TEL 042-325-0111（代表）

東京都国分寺市教育委員会内

印刷所 統計印刷工業株式会社